

## 施設型農業への支援事例

### 八代市 大岩雄治

#### 農業経営主の横顔

昭和38年 2月3日生まれ  
 経営作目は  
 水稲+メロン+トマト  
 昭和56年 地元農業高校を卒業と同時に  
 就農。  
 昭和59年 結婚1男2女を授かる。  
 平成12年 12月13日に認定農業者と  
 なった。



#### 現在の経営に至るまでの経緯

昭和56年に地元農業高校を卒業し就農した。就農当時は水稲+い草（100a）+メロン・トマト（30a）であったが、昭和59年に結婚し昭和61年にい草を廃止し水稲+メロン（100a）+トマト（100a）の施設型経営に転換し、現在に至っている。  
 平成23年には後継者が就農する予定であるので更なる規模拡大を目指す。

#### 農地保有合理化事業に対する評価・感想等

今回の売買は所有者の負債整理であり相対で売買するといろんな揉め事が（目に見えない部分がたくさん）あるが、公社に入ってもらったのですべて整理してもらえ、心配がなかったのがよかった。  
 農地を安心して購入ができるので今後も売買をするときはぜひ公社を使いたい。

#### 農地保有合理化事業活用の経緯・特徴

水稲・メロン・トマトを中心とした農業経営であったが、労働力の分散と周年所得の確保を行い、経営を安定させるため規模拡大が必要となったので、平成13年に合理化事業により自宅周辺に25aの農地を取得し、レンコンの導入を行い規模拡大を開始した。  
 平成16年には同じく合理化事業を活用して1haの農地を取得し、40aにはレンコンを作付けし、60aはトマト・メロンの作付けを行い施設園芸を中心とした経営の基盤を確立できた。

## 経営規模の変遷と目標

		5年前 (H12年)	現在 (H17年)	5年後 (H22年)
経営耕地面積 (借入地)		170 a	270 a	270 a
作 目	水稲	55 a	50 a	50 a
	トマト	120 a	160 a 短期	110 a 長期 50 a 短期
	メロン	100 a	100 a	20 a
	レンコン		60 a	60 a
労 働 力	家族労働力	4人	3人	3人
	常時雇用労働力		600人 (延べ)	1500人 (延べ)
	臨時雇用労働力	600人 (延べ)	150人 (延べ)	
主 要 施 設 機 械	トラクター	32 p s 21 p s	32 p s 21 p s	32 p s 21 p s クローラー35 p s
	ホイルローダー	1台	1台	1台
	連棟ハウス	1.5 ha	2 ha	2 ha

## 都道府県農業公社のコメント

地域でも中心となる担い手であり、6年後には後継者も就農予定である。今後も規模拡大意欲があり、農業経営に関しても作付け体系及び労働力配分にも気をつけ農業経営の安定に努めている農家で、公社としても支援する中心的な農家であると考えている。

## 取得経緯

平成12年9月29日  
2,580 m<sup>2</sup>  
10,070 m<sup>2</sup>

## 経営内容

水稲+メロン+トマト+レンコン  
認定日 平成12年12月13日  
認定期間 平成12年12月13日から平成17年12月12日  
平成17年12月に再認定申請予定